

会長挨拶

九州建設技術交流会会長

(九州地方整備局企画部長) 森北 佳昭



第3回九州建設技術交流会にたくさんの方にご参加いただき誠に有り難うございます。今回の参加希望者は100名を超えており、会場の都合で参加できない方もおられるほど希望者が多いとのことで心から感謝を申し上げます。今回は4名の方に話題提供していただいた後、総合評価落札方式における技術評価について、九州大学の日野先生にコーディネートしていただき産学官のパネリストによる意見交換を行う予定です。産学官それぞれのお立場で、多くの方が総合評価落札方式に係っておられるということで、このように多くの方にご出席いただけたものと思われまます。今日の話提供及び意見交換が皆様にとって有意義なものとなることを心から期待して挨拶とさせていただきます。

《プログラム概要》 H20.10.30

●挨拶：九州地方整備局企画部長 森北 佳昭

●話題提供：

①「港湾整備を支える技術の現状」

(社)日本埋立浚渫協会九州支部 石川 泰朋

②「大山ダム堤外バイパスの基礎処理結果について」

(独)水資源機構筑後川局大山ダム建設所 波多野圭亮

③「鋼構造部材のさび厚と腐食挙動の相関関係に関する基礎的研究」

福岡北九州高速道路公社福岡事務所 片山 英資

④「中国四川大地震における土砂災害」

九州大学大学院工学研究院准教授 陳 光斉

●「総合評価落札方式における技術評価」に關しての意見交換

●閉会



【交流会の開催状況】



港湾整備を支える技術の現状

(社)日本埋立浚渫協会九州支部

東亜建設工業(株) 石川 泰朋氏



石川氏は、港湾整備において重要な軟弱地盤処理技術、浚渫土リサイクル技術、汚濁防止技術、漂砂制御技術について話をされました。軟弱地盤処理技術としては、短時間に強度を確保でき直ちに上部構造の施工が可能なCDM、DJM工法が、産学官連携により開発された歴史や概要について説明がありました。また2009年に国際会議 Deep Mixing in 2009 が沖縄で開催されることも紹介されました。浚渫土リサイクル技術としては、SGM 軽量土、管中固化処理による安定化、脱水・分級システム工法、スーパグラブバケット浚渫工法や二重管トレミー工法による汚濁防止についてビデオを交え分かり易い説明がなされました。最後に、特殊ブロック設置による漂砂制御について、室内実験、実証実験の紹介がありました。

大山ダム堤外バイパスの基礎処理結果について

(独)水資源機構筑後川局

大山ダム建設所 波多野 圭亮氏



波多野氏は、大山ダムの位置、規模等の概要、堤外バイパスの目的やこれまでの経緯について述べられ、その中でも特に、ダムサイトの地質構造やバイパストンネル部に施したグラウチングに関する詳細な説明がありました。当ダムは、水資源機構としてこれまでに経験がない第3紀の火山岩類地層に建設され、安山岩グループと自破碎安山岩グループが互層になって存在するダムサイトの地質としては特殊な環境だそうです。ダム基盤の止水性を高めるためのグラウトについても説明があり、ファンカーテン、ファンコンソリデーションなどの種類や目的、改良目標値、施工規模について具体的に示されました。また、グラウト結果についても報告があり、基礎処理設計の妥当性を確認できたことが報告されました。

鋼構造部材のさび厚と腐食挙動の 相関関係に関する 基礎的研究

福岡北九州高速道路公社 福岡事務所

片山 英資氏



片山氏は、福北公社と九州大学が行った共同研究及び、公社としてのこれからの産学官連携について話をされました。公社が管理する橋梁の内7割が鋼橋であり、補修工事の6割以上が腐食対策とのことですが、点検基準が定量化されていません。そこで九州大学と共同研究をおこない、鋼材のさび厚と腐食深さの関係について検証されました。大気暴露試験からさび厚と腐食深さの関係式を推定して、30年経過した実構造物で検証した結果、推定した関係式が概ね利用できることが判明したとの報告をなされています。

維持管理を行うに当たっての技術力は、極めて高度なものと思われるので、公社として管理者の技術能力を高めるためにも産学官連携に努めたいとのことです。

中国四川大地震における 土砂災害

九州大学大学院工学研究院准教授

陳 光斉氏



陳先生は、四川大地震の地盤工学会調査団に参加され、主に地震の概要、被害状況、土砂災害の特徴について話をされました。地震規模が大きく震源地が浅いため、被害が大きくなったものと思われます。犠牲者は約8万人、被害総額は13兆円を超え、そのうち1/3が地震の2次災害とした土砂災害によるもので、現地は急傾斜地で谷が深く土砂により堰き止められた天然ダムが多数できているそうです。写真で示された飛来石は極めて大きく、地震の加速度の大きさを物語っています。また、高速で土砂が流れたため、現地の人は土砂が地面からわき出たと証言されたとのことです。これらの状況を考えると、日本における防災計画上の地震時警戒区域の見直しが必要であり、ハザードマップにおいて天然ダムの危険性も配慮すべきで、今後の研究に繋がりたいと話されました。

～「総合評価落札方式における技術評価」に関する意見交換～

最近主流と成りつつある「総合評価落札方式」について、九州大学の日野先生を座長に産学官7名の方をパネリストに招き意見交換会が行われました。はじめに九地整の担当者から総合評価落札方式に関する概要と今後の方向性について話があり、引き続き地方自治体としての取組みについて北九州市から報告がありました。産からの意見としては、総合評価入札方式自体の基本的な考え方については賛成するが、改善要求事項として「評価の基準として工事成績を入れる」「2段階選抜や小規模工事における要求内容の低減による参入者の負担軽減」「公告から決定までの期間短縮」「地方自治体発注工事における調査価格付近への集中の見直し」などがありました。これらの意見に対して、発注者からは2段階選抜の検討や応札金額の集中を避けるために算定式の見直しを行っているとの回答がありました。また、地域に貢献している企業への評価も重要であり対応を模索中だそうです。

学代表として九州共立大学の牧角教授から、総合評価入札方式の本来の目的は良いものを作ることであり、過度の競争や受・発注者双方のオーバーワークを避け、より効率的な体制を考える必要があると発言がありました。

今回の意見交換会では、それぞれの立場で忌憚のない発言がなされ、非常に有意義な場であったものと思われます。最後に日野座長が、総合評価入札方式に関しては次回以降も取り上げ議論していきたいと締めくくられました。



☆☆意見交換会参加者☆☆

座長：九州大学大学院教授 日野伸一氏
パネリスト

(社) 日本土木工業協会九州支部 山中 徹氏

(社) 日本道路建設業協会九州支部 東宮莊平氏

(社) プリミスト・コンクリート建設業協会九州支部 浅井 悟氏

(社) 九州建設業協会 谷村隆三氏

九州共立大学教授 牧角龍憲氏

北九州市技術監理室技術企画課長 柴田卓典氏

九州地方整備局企画部技術開発調整官 栗野修司氏

【事務局より】

当交流会事務局は産学官より事務局員を選出いただき協働の事務局として運営しております。九州での新技術の開発・活用・普及等へのご意見やご要望などがございましたら、お気軽に下の事務局までお寄せください。

【発行者】九州建設技術交流会

●官＝九州地方整備局企画部機械施工管理官

TEL : (092) 471-6331 FAX : (092) 476-3483

●学＝九州大学大学院工学研究院

TEL : (092) 802-3372 FAX : (092) 802-3372

●産＝(社) 九州建設技術管理協会

TEL : (092) 471-0189 FAX : (092) 414-0767

E-mail : kouryukai@kyugikyo.or.jp

事務局